



瀬良垣区での聞き取り調査

ます。現在、進めている民俗編の編さんには、過ぎ去った時を掘り起こすだけではなく、過去の民俗習俗を客観視し、現在の習俗と照合しながら、その推移の過程についても記述することが求められていると思います。

これまで幾つかの市町村の民俗編に携わり、人々の暮らしや信仰について調査を行い、その内容を記述してきましたが、改めて各地域における

民俗編編さんの重要性和、その意義について再認識させられたのが、昨年の首里城の火災でした。焼け落ちる正殿の様に為す術もない無力感と、失って知る喪失感が、それを教えてくれました。

現在、継承されている民俗習俗などを顧みますと、変化しながら受け継がれてきた習俗や、失われた習俗の多さに気づかれます。現行の年中行事をはじめ他の習俗なども、現状を維持したまま、次に継承されるとは決して思えません。恐らく社会情勢によって変化しながら受け継がれていくものだと思われます。そして、それは至極当然のことだとも言えます。私たちは、明治期の同化政策による民俗の大和化、戦後のアメリカナイズされた生活様式などと、さまざまな習俗の変化を既に経験してきました。

こうした変化を当然のこととして看過するのではなく、過去から現在に至るまでの習俗の態様や推移の過程をできる限りの史料や、地元に残された伝承などを駆使して記録に留めていきたいと思っています。それを次の世代に引き継ぎ、各世代における内省を通じて、人々がさらにより良い暮らしを成し得るための一助となる資料の編さん作業を行うことができることが、今の民俗編に課せられた意義だと考えます。

次年度も村内各地域で民族調査を行い、様々な記録を残していきたいと思っています。引き続きご協力くださいますようお願い致します。



塩屋区での聞き取り調査



恩納区ヨー島ウガン
(フトウキヌメにて)